

研究テーマ 「進んでやる気の俣野っ子」

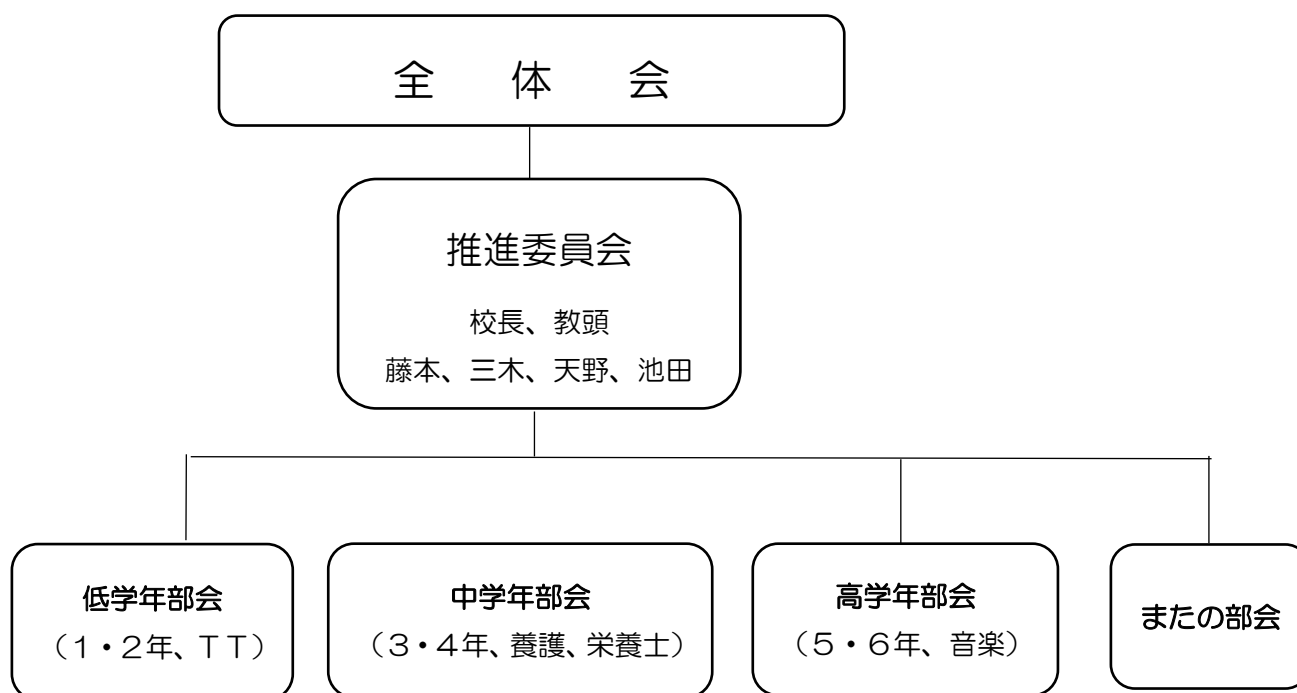
～豊かなかかわりを築くための授業実践～

○研究テーマ設定の理由

俣野小学校の児童は、全体的に素直な子が多く、教えられたことや指導されたことはよく吸収する。しかし、自分の考えを相手にわかるように説明することや、相手の考えを聞くことが苦手である。そこで子どもどうして自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりできる場面を、学習の中に多く設定し、豊かにかかわる機会を増やし、自分の考えを表現する力をつけさせていきたい。

研究主題・サブテーマは6年前からの継続である。今年度も豊かなかかわりに重点を置き、授業実践を行うことで、各部会のめざす子ども像に迫ることができると考える。

○研究組織



* 推進委員会の役割・・・各部と連絡、活動全体についての原案作成、検討、提案

○研究の進め方

- 各部会の児童の実態から目指す子ども像をはっきりさせ、その手立てを考える。
- 今年度も教科を外国語活動、外国語に関わることに絞り、授業を中心に研究する。
(指導案検討・授業実践・研究協議) → 1人1回の授業公開。
- 授業者は授業公開の際、本時の視点を提示する。研究協議では、その視点について振り返る。

○研究の内容(部会、全体会)

部会 低学年・中学年・高学年・またの学級の4つの部会に分かれ、研究する。
(教材開発・指導案検討・授業実践・研究協議)

全体会 研究テーマの確認・研究の進め方を話し合う。
各部の研究の成果の発表・まとめ・反省を行う。

○研究の重点

今年度も教科を外国語に絞り、各部会の「めざす子ども像」に迫るための視点を公開授業の際にはっきりさせることにした。そして、その視点についての協議を行うことで、研究テーマの実現を図る。

- 低学年は視覚的教材を活用し、その国の文化や人に興味をもつようにする。また、歌やゲームを通して外国語に親しむようにする。音楽や体育などで実践していく。
- 中学年部会は、歌やゲームを取り入れ、単元計画を工夫して、子どもたちが外国語に慣れ親しむように授業を工夫する。
- 高学年部会は、授業の流れをパターン化し、会話になるような活動を取り入れるなどして、外国語でコミュニケーションがとれる子どもの育成を目指す。
- またの学級は、一人ひとりにあった課題に取り組み、授業を通してコミュニケーションスキルを身につける場をつくる。子どもが興味をもつ教材を見つけ、それを生かした活動を展開する。